



第64号

ぽっかぽか

函南病院新設部



謹賀新年

病院長 高野 篤

新年あけましておめでとうでございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

まず、昨年の能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。当院からもD・M・A・T隊5名が出勤し、4日間にわたり被災地支援を行いました。被災地への貢献が少しでもできたこと、そして災害現場の実態を知る貴重な経験ができたことは、私たちにとって大変意義深いものでした。その後、9月の豪雨災害にも翻弄され、未だ復興が進んでいない被災地の状況に心が痛みます。困難な状況に直面しながらも、力強く立ち上がっている皆様の姿に深い敬意を表します。また、8月には気象庁より南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」が発表され、日本全国が緊張の時を過ごし、災害への備えがいかに重要であるかを改めて実感した年となりました。

当院では本年度、地域医療への貢献と働きやすい職場づくりに重きを置いて

て現在も取り組みを進めているところであります。当院の医療機能を地域全体の資産として活用していただけるよう、クリニックの先生方と直接お話をさせていただき、地域医療の実情や課題についての意見交換の機会を持たせていただきました。やはり顔の見える連携が施設間の繋がりを深めるものだと実感しております。ご協力いただいた先生方には深く感謝申し上げます。また、4月の診療報酬改定で救急医療の課題への対策として「初期診療後の救急患者の搬送に対する評価」が点数化されました。当院でも3次救急病院からの転院受入について対応するよう努めて

おりますが、こちらは制度が実情に合っていないのか、実際の運用にはまだまだ課題があるように感じております。

働きやすい職場づくりとしては、昨年より引き続き高知県医療勤務環境改善支援センターの支援を受けながら、ハラスメント対策の土台作りに取り組



んでまいりました。マニュアル作成、相談対応チームや委員会の設置などが完了し、これからはより具体的な行動に移していきたいと考えております。さらに、職員の皆さんが安心して働ける環境を整えるための環境整備や、ワークライフバランスの推進にも力を入れてまいります。

今年は巳年、蛇が皮を脱ぎ捨て新しい姿へと生まれ変わるように、当院も生まれ変わる一年にしたい!!ヘビーな一年になりそうです。皆様どうぞよろしくお願い致します。



新規ALS治療薬「ロゼバラミン®」の製造販売承認について

脳神経内科 医師 沖 良祐



私が前任地の徳島大学時代より取り組んできました筋萎縮性側索硬化症(ALS)に対する超高用量メコバラミンが、2024年11月20日に「ロゼバラミン®」の名前で薬価収載され、ついに一般のALS患者さんに対して使用できるようになりました。

メコバラミンは活性型ビタミンB12であり、日本では末梢神経障害などに対して治療効果が認められ、「メチコバル®」の名前で現在でも日常診療において広く使用されています。ALSに対しては、約30年前に小規模の臨床研究において超高用量(末梢神経障害に対して使用する量の100倍)で使用することで病気の進行を遅らせる効果があることが発見され、以後治験が進められてきました。2000~2010年代前半にかけて、製薬企業のエーザイ社が企業主導の第Ⅱ/Ⅲ相治験を行い、発症1年以内の早期患者に対して超高用量メコバラミンを使用すると病気の進行速度を45%程度遅らせ、生存期間が約600日延長する

ことが確認されました。しかし、この結果は事後解析(治験開始前に設定した主たる解析結果ではなく、治験終了後に治験に参加した患者さんのプロファイルを詳細に検討した結果の一つ)であったため、治験に参加していないALS患者さんも使用できる保険承認薬として認めて頂くためには追加試験が必要となりました。追加試験は企業治験ではなく医師主導治験(大病院などの研究機関が中心となって行う治験)として行うこととなり、私は徳島大学脳神経内科の事務責任者として2017年より治験の運営にあたりました(JETALS治験)。JETALS治験には全国25の医療機関、130名の患者さんに参加して頂きました。その結果、JETALS治験では前相治験とほぼ同じ結果が得られ、改めてALSに対する超高用量メコバラミンの有効性が確認されました。特筆すべきは超高用量メコバラミンは極めて安全性が高く、治験期間中に治療薬の副作用によって治験を中断した患者さんは1人もいま

ませんでした。ロゼバラミン®は有効性と高い安全性を兼ね備えた治療薬であり、単剤あるいは既に承認されているリルテック®、ラジカット®との併用療法として、今後のALS診療において広く使用されることが期待されます。ロゼバラミン®の治験成功のニュースのインパクトは非常に大きく、今年開催されたInternational Symposium on ALS/MND(ALSに関する最も大きな国際学会)において海外の研究者からも大きな注目を集めました。

私は2019年度から久病院を経て凶南病院に赴任することになりましたが、その後も定期的な徳島大学勤務とリモート会議を行いながらなんとか治験の終了にこぎつけることができました。治験開始当初から治験運営に取り組んできた徳島大病院総合臨床研究センターの皆さん、病院不在時にサポートしてくださった久病院・凶南病院のスタッフの皆さんの支えがなければ、このような良い結果を得ることは難しかったと



▲第35回International Symposium on ALS/MND (2024/12/8, カナダ モントリオールにて)



▲徳島大学病院総合臨床研究センターの皆様と

思います。この場をお借りして皆様に感謝申し上げます。

ロゼバラミン®の登場をもってしてもALS診療はまだまだ道半ばであり、病態解明、診断・評価方法、治療法開発など様々な分野で更なる発展が求められています。当院では地域のALS診療を担う病院として重要な役割を果たすことができるよう、引き続き精進していきたいと考えています。これからもご支援のほど宜しくお願い致します。



今年も、無事クリスマス会を開催することができました。スタッフが数週間前から準備してくれていましたが、感染状況が厳しくなる一方…。毎年のことながら、試行錯誤の開催です。飲食なしの、演奏会をメインとしたクリスマス会です。それでも、ボランティアの野嶋さんのあたたかいエレキフルート演奏やオカリナのYUKOさんの懐かしい、やわらかな音色は患者さんとご家族に響き、家族と一緒に迎えられるクリスマス会、それぞれにいろんな思いがある中、涙する方もいらっしゃいました。そして、今年もクリスマスプレゼントはサプライズでご家族がそれぞれ用意したものを、院長サンタが一人ひとりに渡して



緩和ケア病棟

クリスマス会

Merry Christmas



くれました。「え〜！これ誰が選んだが〜？」サプライズ大成功で、嬉しそうにプレゼントを開ける患者さんたち。

飲食がなくても十分すぎるほど穏やかであたたかい時間が流れました。どんなに忙しくても、やっぱり緩和にはクリスマス会がないとなあと思います。ご協力くださった職員の皆さま、ボランティアの皆さま、ありがとうございます。お疲れさまでした。



介護医療院のご紹介

介護医療院とは、2017年度末で廃止した「介護療養型施設」の主な転換先として2018年4月に新設された介護施設です。

当院でも令和3年12月1日に「介護療養型施設」から「凶南病院 介護医療院」へ転換し、長期療養が必要な要介護高齢者の生活の拠点として入居出来るだけでなく看取りやターミナルケアも含めた医療ケアを提供しています。

病床数は55床。年々その需要は高まり、常に満床状態で忙しい日々ではありますが、看護師・介護福祉士・ケアマネージャー・リハビリ・歯科衛生士・栄養士など多職種と協働し、安心して療養できる環境を



目指し援助しています。

ここでは毎年季節ごとのレクリエーションをスタッフが企画し行っています。ここ数年はコロナの影響により大人数で集まったのレクリエーションを行う事ができていませんが、壁アートや飾りで季節の移り変わりを感じてもらったり、お誕生日にはスタッフによる合唱で、一緒にお祝いをしています。

体力的に大変な面もありますが、比較的症状が安定しているため長期的に年齢を重ねても働ける職場であり、ケアマネージャーが在籍しているので社会資源や介護保険についても学ぶことができます。これからも、アットホームな雰囲気のある職場を目指してスタッフ一同頑張っていきます。



検査部 出間さんちのなつくん

Uchinoko Jiman

なつくん

名前: なつ(キジ白)
性別: 男の子 性格: ビビリ

チャームポイントはまん丸おめめと、
両前足裏の黒い斑点♡
好きなおもちゃは猫じゃらし...ではなく、
すみっコぐらしのトカゲぬいぐるみです!

ZZZ...

NATSU

久会研究発表会

事務部 明神 聡

令和6年11月16日、第26回久会研究発表会を2部構成で開催しました。第一部は特別講演として、四国こどもとおとなの医療センターでホスピタルアートディレクターを務める森合音先生に、「祈りとホスピタルアート〜みんなで作る新しい病院の形」をテーマにご講演を頂きました。

私のアートに対する思いは、「芸術」「表現」「センス」「なんか心惹かれる」でした。とはいえ日常でそれほどアートを意識する事はなく、「よく分からない」「才能の持ち主の世界」「私のような凡人には関係ないかな」とも思っていました。しかし、今回の森先生の講演を聞いて、確かに院内のオブジェや絵画も心を癒すアートだと思いますが、それよりも医療スタッフが患者さまや病院を訪れる、すべての方々への最高のホスピタリティこそがアートである、私は強く感じました。これからは日々の生活の中で、「みんなが幸せになるために」をテーマにアートを表現していきたく



いと思っています。まあ、アートよりはアートが勝ってメタバボまっしぐらの日々ですが。続いて第二部の研究発表は、関南病院、久病院での日々の業務を通じて見つけた課題やテーマについて、多職種の職員が取り組みや研究成果を報告・共有する場として行われました。看護、薬剤、リハビリ、事務と多職種からの6題の発表があり、テーマも様々で他の部署の取り組みについても理解を深めることができる貴重な機会となりました。

コロナ禍以降、久々の開催でしたが、院内外約90名の方々にご参加頂き、学びの多い有意義な時間を過ごすことが出来ました。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。



第26回 久会研究発表会

第一部 特別講演 13:30~15:10

祈りとホスピタルアート
～みんなで作る新しい病院の形～

第二部 研究発表 15:15~16:30

森合音 先生
(もり・あいね)
四国こどもとおとなの医療センター
アートディレクター
NPOアーツプロジェクト 理事長
丸亀市立猪熊菰一郎現代美術館 理事
一般社団法人 HANSAM 理事

私は、自身の体験から「痛み」のあるところにこそアートが息づくと感じています。病院には日々たくさんの「痛み」が生まれます。これまで導入されてきたのは「作品」という役割は院内にある「痛み」を創造力と想像力によって回復させること、つまり長期的な視点で取り組む問題解決であり、医療者も患者もクリエイターも共に、対話を通じて知恵を出し合い「新しい病院」を作る、終わることのない取り組みなのです。

2024年
11月16日 土
13:30開演
かるぽーと2階小ホール
入場無料

【お申し込み】
久会職員以外の方は、下記URL、またはQRコードの参加申込フォームよりお申込みください。なお、当日直接のご参加も可能です。
<https://forms.office.com/r/hUBC5A7yJW>

【お問い合わせ】
医療法人久会 関南病院 久会研究発表会事務局
☎ 088-882-3126

(R7年1月~)

関南病院 インフォメーション 外来診察日程

内科						
	月	火	水	木	金	土
午前	吉岡 沖	上田	小笠原	上田	越智	沖 (第1,3週)
午後	上田	沖	吉岡	沖 水田	吉岡	

整形外科						
	月	火	水	木	金	土
午前	藤田	溝淵	吉本	吉本		
午後	吉本	藤田		(手術)	藤田	

外科						
	月	火	水	木	金	土
午前	高野	久(晃)	久(晃)	小河	高野	担当医
午後	担当医 (高野or久(晃))	小河	高野	久(晃)	小河	

創傷ケアセンター						
	月	火	水	木	金	土
午前						
午後		津野(巻爪)		久(晃) 津野		

泌尿器科						
	月	火	水	木	金	土
午前						
午後	小林					

放射線科						
	月	火	水	木	金	土
午前	久(直)	久(直)	久(直)	久(直)	久(直)	
午後						

麻酔科(ペインクリニック)						
	月	火	水	木	金	土
午前						
午後					神原 (心療ペイン)	

内視鏡検査						
	月	火	水	木	金	土
午前	久(晃)	横田/吉岡	小笠原	久(晃)	越智	
午後		横田/吉岡			久(晃)	

緩和ケア内科						
	月	火	水	木	金	土
午前	神原		神原			
午後	高野 神原		神原 小河		神原	

※外科 久明史医師は、令和6年12月1日より関連施設の久病院へ異動となりました。

- ◆内科・整形外科・創傷ケア・緩和ケア内科・ペインクリニック・泌尿器科は予約制です。電話予約もお受け致します。
- ◆ご予約に関するお電話での受付時間は、午前は8:30~12:00、午後は1:30~5:00となります。(12:30~1:30は予約の変更等の受付はできません)
- ◆初診の方は、問診や検査等に時間を要しますので、午前は11:00まで、午後は3:00までにご来院くださいますようお願い致します。
- ◆水曜日の外科外来は、手術のため変更になる場合があります。
- ◆土曜日の担当医は、毎週変わります。詳しくはホームページの土曜日診療日程表をご確認ください。



◀ホームページ
(外来診療日程)
はコチラから

診察時間		
	午前	午後
平日	8時30分~12時	1時30分~4時30分
土曜	8時30分~12時	休診
日曜 祭日	休診 但し、急患は随時受け付けます。	

緩和ケア

がん患者さんの、心と体の苦痛を緩和するための治療に取り組んでいます。緩和ケア外来、訪問診療、緩和ケア病棟、訪問看護ステーションにて支援いたします。まずはお電話にてご相談ください。

各種健診

自治体の各種健診を実施しています。特定健診、高知市大腸がん検診および大腸精密検査、市町村胃内視鏡検診、高知市肝炎ウイルス検査、高知県風しん抗体検査をお受けしています。

創傷ケアセンター

糖尿病性足潰瘍、血行障害や骨の変形が原因で起こる潰瘍など、慢性創傷に対して専門的訓練を受けた医師が治療を行います。予約制での診療となっております。



人間ドック

当院では、日帰り人間ドックとして、がんドック、脳ドック、その他オーダーメイドコースをご用意しています。皆様の健康管理にぜひご利用ください。

発行
特定医療法人久会 関南病院
〒781-0806 高知市知寄町1丁目5-15
TEL 088-882-3126

編集 関南病院新聞部 編集長 高野 篤

